

大正時代の治山事業調査

四国森林管理局 愛媛森林管理署
津島・南宇和森林官 福田 薫

1 課題を取り上げた背景

平成25年度、四国森林管理局局長室に保管されていた大正時代の写真がデジタルファイル化され職員に公開されました。その中の当時の永納山えいのうさん（愛媛県西条市）を撮影した写真は衝撃的なものでした。

瀬戸内の温暖な気候に育まれた天然林の里山である永納山は、大正5年（1916年）の当時は見るも無残な「はげ山」の姿で写っていました。



大正5年（1916年）の永納山国有林

さらに衝撃的なことに動力もない当時、山全体を人力で階段状に掘削し、緑化を行う治山事業の写真が続いていました。写真に強い興味がわき、現況や施工内容について調査を進めていくと、100年前日本で治山事業が試行錯誤の上にスタートした当時における永納山治山事業の位置付けも見えてき

ました。永納山治山事業という愛媛署治山史に没していた先人の偉業を後世に伝えていくために、調査結果をとりまとめ技術研究発表にて紹介します。

2 取組の経過

(1) 永納山治山事業に関する資料の収集： 愛媛森林管理署の倉庫や公立図書館において大正時代の永納山周辺に関する資料を探しました。

(2) 現地施工箇所の踏査等： 大正時代の治山施工を撮影した箇所の特定を試みるとともに、治山工事跡の現況を調査しました。また、周辺住民からの聞き取り調査を行いました。

(3) 類似施工箇所の調査： H25年度に公表された「後世に伝えるべき治山～よみがえる緑」に選定された愛媛県今治市大三島の「護山治水」が永納山治山工事に酷似（施工時期、施工内容、地質、被害状況等）していたため、現地調査や資料収集を行い本研究の参考としました。

3 実行結果

はげ山化の原因は、江戸時代の薪炭材としての乱伐と風化侵食しやすい花崗岩質であったためでした。豪雨による土石流や洪水が相次ぎ、人畜・家屋・田畑に甚大な被害が発生したため、明治23年に植栽事業を試みましたが失敗し、土砂流出防止をした上で植栽するべきとの報告がなされています。また当時は日本各所にはげ山復旧工事が施工され、様々な治山工法が誕生する時代でした。永納山は大三島とともに、近畿地方で中心に施工されていた山腹工法（積苗工）を採用し緑化に成功しました。現在においては永納山全体が樹木と厚い表土に覆われ、施工完了から現在に至るまで当地域において大きな山腹崩壊が発生しておらず、土砂流出防止機能、水源かん養機能を発揮しています。



現在の永納山

4 考察

100年前に施工された治山事業は、永納山を森林に覆われた山に変貌させ、現在においても下流域の住民の生命・財産を守り続けています。工法も試行錯誤、動力もない時代、当時の治山技術者の苦労・苦悩は想像することも困難ですが、その努力の成果は、工事そのものが忘れられていた現在においても確実に続いています。永納山治山事業の調査を通じ、先人が残してくれた色々なものを再発見し、誇るべき事業・技術として後世に伝えていく必要があると思いました。